

## ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年

滋賀県・守山市佐川美術館 2016. 06. 25～08. 28 新潟・近代美術館 09. 10～11. 27



ラグーナ上に築かれた都市「ヴェネツィア」は、中世以降オリエント世界と西洋を結ぶ東西貿易の一大拠点として栄え、“アドリア海の女王”と讃えられる水の都で、壮麗な宮殿、教会堂などがあり、世界屈指の観光都市として知られている。

16世紀になるとヴェネツィア・ルネサンスが花開き、政治・経済とともに芸術文化の中心となり、町全体が一つの芸術で数世紀にわたり、多くの芸術家を生み出した文化都市として発展してきた。

本展は、ルネサンスの巨匠「ティツィアーノ」や「ヴェロネーゼ」の作品に、「モネ」を代表とする19世紀の印象派の画家たちから現代に至るまでの500年に及ぶヴェネツィアの美の精髓を、米国の「ボストン美術館」所蔵品「約130点」によって鑑賞することができる。

カナレット《サン・ジオルジョ・マッジョーレ聖堂 サン・マルコ沖に望む》 (上)

### < 展覧会の構成と見どころ >

- 第1章 比類なき都市：迷路のように入り組んだ水路と無数の橋で成り立つ地形によって形成された「ヴェネツィア」の町並みを、18世紀に流行した「都市景観図」で紹介し、そこに住む人々を描いた「肖像画」などを紹介している。
- 第2章 描かれた祈り：ルネサンス期に活躍した「ティツィアーノ」の作品を中心に宗教美術を紹介し、ヴェネツィア独自の美意識をたどっている。
- 第3章 ヴェネツィア様式：中世以降世界で最も裕福な都市の一つであった、ヴェネツィアの人々の官能的な生活「ヴェネツィア様式」の美学の紹介である。



吉田博《ヴェネツィアの運河》(左下) クロード・モネ《ヴェネツィアの大運河》(右下)

第4章 芸術家たちを魅了する町：憧れのヴェネツィアには19世紀以降、その美しい景観を求めて世界各国の芸術家たちが訪れ、「モネ」や日本の風景画の第一人者である「吉田博」らの異邦人達が見出したヴェネツィアの魅力に迫る。